

アフガニスタン山の学校だより

2021年 ばあーる 2020年号 新たな希望の年へ

通算36号

翼

ばあーる



▲この子たちの笑顔にこそ、アフガニスタンの未来と希望がある。

コロナ禍を乗り越えて

会員のみならず、いかがお過ごしでしょうか。日本では新型コロナウイルスがまだ収束しておりませんが、アフガニスタンでも多くの方が亡くなっていると聞いています。ただ、山の学校の生徒は1人もコロナにかかることなく、9月26日から授業が再開したそうです。新校舎の二階部分が建て増しされ、コンピューター学習もできる図書室ができました。地元の人々と下の町で孤児院を開設している豪NGOの協力で出来上がったそうです。また、旧校舎は診療所となつて医療活動が始まったとのこと。会では、学校を新校舎にまとめることで不足した2教室分の増築費を支援しました。確実に人々の自立への歩みが始まっていることを実感いたします。

しかし、現地ではいまだに戦闘、爆弾テロ、投票への脅し、学校の焼き討ちなどが続いています。その報に接するたびに、長く取材を続けた指導者マスードの言葉を思い出します。「戦争では物事が解決しないことを学び、各勢力が武器を置いて話し合いを進め、選挙で人々の声を聞くこと。それが私にとっての最大の勝利です」。2021年は、マスードが亡くなって20年の節目。平和を目指し子どもたちの教育に力を入れたマスード。いつの日か、彼の志を継ぐ人が必ず現れるはずだと私は信じています。いま勉学に励む子どもたちが、アフガニスタンの平和を担ってくれるに違いありません。これからもアフガニスタンをみなさんと共に見守っていききたいと思えます。

アフガニスタン
山の学校支援の会代表



長谷川 洋海

「活動終了の決断へ」



NAGAKURA, Hiromi
長倉洋海

会の活動を2023年3月で終了することをお知らせしたく
思います。突然のことで驚かれる方も多いかと思いますが、そ
こに至った経緯を述べさせていただきます。

侵攻したソ連軍と最も激しい戦いが行われたパンシール渓谷。
その戦争の傷がいえない2004年から会はポランデ地区の
小学校への支援を始めました。最も辺鄙な場所であり子どもた
ちの勉強がままならなかったからです。支援をはじめて17年、
当初は制服を着ることもできなかった子どもたちですが、今は
女の子が全員、男の子も多くが制服を着て通学しています。村
の家々にはポランデ川の流れから発電した電気が来るように
なり、テレビはもちろん、洗濯機などの家電製品を揃える家庭
が増えました。オートバイを購入し下の町に買い物や用足しに
行き、子どもを乗せて学校まで送ってくる家族もいます。

現地の安井さんからは、「いままで整備拡張していた学校まで
の道路が、(今年はコロナ禍でできなかったが)来年には舗装道路に
なります」という情報が届いています。かつては不便な山中にあ
った学校へのアクセスが格段に良くなり、乗合タクシーなどの
交通手段も増え、子供たちは前よりもっと楽に下の町、バザラ
ックやオストナの高校へ通うことができるようになっています。

会が給与支援をしていた先生たちの財政状況も改善されてい
ます。臨時教員が政府の正式採用となったり、子沢山で家計が
苦しかった家庭も子供が就職し生活に余裕が生まれています。
町へのアクセスが楽になり、先生方は町で掛け持ちの仕事をす
ることも可能になってきています。

そうした事情に加え、住民たちの間で地域の発展や教育を進
めていこうという気持ちが高まってきています。校舎の二階の
建て増し、図書室やコンピューターの設置、また診療所の誘致
などもそうした気持ちの現れだと思えます。

当初は活動期限を10年として支援活動を始めました。10年経
てば、アフガニスタンが平和になり、人々の経済的状況も変わ
るだろうと思ったからです。しかし、戦闘やテロが続き、経
済的自立も捗らない中で、「困難が続くままこそ、支援を続ける
べきだ」という声が運営委員から上がり、「一旦、終了はするが、
再度、第2期として活動を継続しよう」ということになりました。
1期、2期と合わせて17年の活動期間は、私がマストドを
取材してきた年月に当たります。私としては地域の自立の様子



を見ながら、ここで会の活動に一区切りをつける適当な時期か
など思うに至りました。もちろん、活動をすぐに終えるのでは
なく、会発足から20年を迎える2023年3月まで継続してい
こうと思います。それまでの2年余で、先生方には会からの給
与補助がなくなっても生活が成り立つような経済的自立を進め
てもらい、次ページでお知らせする書籍や映画、全国巡回の報
告会などの活動を進展させようと考えています。公式訪問は来
年、再来年と続ける予定です。

私ごととなりますが、70歳を一つの区切りとして、2023年
以降は生活空間を故郷である北海道釧路に移そうと考えていま
す。母との時間を大切にしつつ、釧路を拠点に国外、国内と新
たな取材活動を進めていく所存です。2023年春に会の公式
活動が終わっても、私たちが築いてきた、山の学校、そして子
どもたちとの関係が切れるわけではありません。連絡を取りつ
つ、何かあれば皆様にもお知らせして行く心積もりです。アフ
ガニスタンに本当の平和がやってきたら、みなさまをお誘いし
て、山の学校を訪れるというのも17年前から変わることはない
「私の夢」です。

いままで活動を続けてこられたのは皆様の御支援の賜物です。
これからの2年半も温かく見守っていただけると幸いです。そ
して、これから製作にかかる書籍や映画を手に、また各地の上
映会・交流会でみなさまとお会い出来るのを心より楽しみにし
ています。

アフガニスタンの子どもたちがつつがなく勉強に励めるよう
になることを祈りつつ、会の活動終了を決断したことをお知ら
せさせていただきます。





2021年から2022年に 実現を考えている企画



①「絵本2冊の出版」

1冊目は、支援の会設立の契機となった指導者マスードについてのダリー語による絵本です。平和を求め、命を大切にしたいマスードの人となりを表すエピソードで構成されます。すでにアフガン作家が内容と構成を決め、挿し絵制作が始まるところです。2021年9月9日のマスードの20周年に合わせての完成を目指します。

2冊目は「山の学校支援の会」についてのダリー語による絵本です。設立の経緯、子どもたちとの交流、子どもたちの生活などを紹介します。こちらは会の実質的な最終年となる2022年

の完成を目指します。

どちらもアフガン人の作家と絵本画家で、イランでの印刷となり、部数は4250部。ハードカバー32ページ。アフガニスタンで作られた中村哲さんの絵本とほぼ同じです。しっかりと造本で印刷も問題ありません。完成後、パンシールおよび近隣の地域の学校に各校5冊ずつ配布します。

②「山の学校の記録動画作成」

公式訪問を重ねる中で、記録してきた子どもたちの勉強の様子や学ぶことの喜びが溢れる笑顔、それをビビッドに捉えた動画で構成。時間は20分から30分の範囲で製作。山の学校のリアリ

ティがより感じられるものとなります。

③「災害基金」

パンシール渓谷は地震や鉄砲水と土砂崩れ、落石事故が多いところ。2023年以降、災害が起きた時に、地域や学校に財政的なお手伝いをしたいと思えます。2023年3月時点で会に残った資金を財源に創設し、長倉洋海が責任を持って管理し、状況に応じて支出します。それらについてはホームページなどで報告していきます。

④「映画製作への支援」

2017年秋にNHKで放映された「アフガニスタン山の学校の記録——マスードと長倉洋海が見た夢」(河邑厚徳監督)を発展させ、新たな取材を加え、内容を濃くしたものを河邑監督が製作しようとしています。より広い範囲で、多くの方に見てもらうために、長倉が撮ってきた写真を多用し、前作よりも長倉洋海の活動に焦点を当てたストーリーを進めたいとのこと。中にはマスードとの出会い、そして山の学校の子どものことがきちんと入ります。その制作費(編集や国内外への広報)を会が支援します。これは子どもたちへの教育支援という会の主目的からは外れますが、日本のみなさんにアフガニスタンへの関心を持ち続けていただく一助になると思えます。この支援には皆様からいただいた会費を使うのではなく、長倉が会の立ち上げ時に初動資金として提供したものと、長倉個人の活動資金としていただいたものを寄付金として会に回したものの(会の会計に組み込み済み)を充てたいと思えます。現在、河邑監督がシナリオを製作中で、2021年完成、2022年の公開を目指します。

⑤「全国巡回行脚」

2冊の絵本と記録動画、河邑厚徳監督の映画を手に各地を訪れ、地方会員や地域の人々と交流したいと考えています。会員から「ここでやりたい。開催への協力もします」と手が挙げれば、会場探しなどをお手伝いいただきながら、各地で順次、開催していきます。





ムルサルさんの カブール通信

*いまだ世界中でコロナの感染が落ち着かない状態ですがみなさんは、いかがお過ごしでしょうか？ 2020年は、コロナの影響で長倉代表も来アフガニスタンを断念しました。山の学校も5か月以上にわたり休校となりました。新学期を迎えることもなく9月に入り高学年の11、12年生の登校が許可され、9月末には学校が通常通り再開されました。アフガン保健大臣は、「コロナに打ち勝った」としながらも第2波がいつやってくるかもしれないので、引き続き手洗い、マスクの着用は必須で注意深く生活するようにと国民に言っているものの、貧困率の高いこの国で働かずして生活ができるわけありません。働かないと「コロナで死ぬ前に餓死する」という人もいほどでコロナなんてどこ吹く風。マスクを着用している人の姿はほとんど見られなくなりました。山の学校では、新1年生の入学が今年はないものと諦めていましたが10月に入り教育省から新一年生の受け入れを各学校で行うように通達され、山の学校でも9人の新一年生が登録されました。ヤシン校長によるとあと3人が入学予定で今年の新1年生は全部で12人となりそうです。

かねてから建設中だった新校舎2階の図書館と山の学校用の2教室も完成しました。完成披露はまだですが、図書館の本などの備品の調達に忙しいようです。この図書館ですがただの図書館では終わら



ないようです。規模は小さいながらも「ポーランド博物館」として、マソド將軍やジハード(聖戦)関係の資料や写真、軍服なども展示され、パンシールの新しい見所として国内の観光客を呼びそうです。この博物館が、私たちの支援が終わった後も、何らかの形でポーランドの人々の暮らしが良くなるきっかけとなれば嬉しいです。

現在、タリバンと政府軍との戦闘が各地で起こる中、カタールのドーハで和平交渉がタリバンとアフガン政府の間で行われているというなんともちぐはぐな状況のアフガニスタンです。アフガン政府やNATO(北大西洋条約機構)を含めた国際社会は即時停戦を呼びかけていますが、現段階では実現していません。毎日、兵士や警官が殉職しています。これは同時にアフガン社会に多くの問題を投げかけています。夫を失った家族の生活を誰が保証するのでしょうか？ 戦闘が続く限り未亡人は増え、多くの孤児を生み出してしまいます。1日も早い平和なアフガニスタンを願ってやみません。

アフガニスタン・カブール
安井浩美

事務局より ▶本号では2023年3月末日の活動終了についてお知らせしましたが、あと2年余は教職員の給与支援などのこれまでどおりの活動も続きます。また、これまでの活動を形に残す企画の実現に向けても動き始めています。そして、終了時点で剰余金があれば地域の災害支援のための基金とし、これまで築いてきた現地の人々のつながりを今後も大切に育んでいきたいと思っています。みなさまには、活動終了の日まで、共に見守り、支えていただけましたら幸いです。

- ▶2021年度の会費の振込用紙を同封いたしました。ご入会されたばかりの方もいらっしゃるため期日は設けませんが、納入をお願いいたします。なお、2020年度分未納の方には2020年分も同封しました。
- ▶不要切手や書き損じはがきのご提供、ありがとうございます。今回の発送にも早速使わせていただきました。今後ともご協力をお願いいたします。
- ▶住所変更の場合は、お手数ですがメールやハガキなどで事務局までご一報ください。



アフガニスタン山の学校支援の会は、写真家・長倉洋海が取材活動を通して出会ったパンシール渓谷ポーランド村の子どものための教育支援を目的として設立された非営利の団体です。2004年4月に設立、以後2014年3月までの約10年間にわたって活動が続けられました。その後2017年3月まで活動を延長。4月より第2期支援活動をスタートしました。



アフガニスタン山の学校だより ばあー3 2020年号/通算36号

発行日: 2020年12月6日 発行: アフガニスタン山の学校支援の会
〒187-0032 東京都小平市小川町1-1071-15 比留川 気付

【振込先】ゆうちょ銀行 振替口座

加入者名: アフガニスタン山の学校支援の会 口座番号: 00160-1-667404

電話: 070-3281-1180 E-mail ▶ info_yamanogakko@yahoo.co.jp

http://www.h-nagakura.net/yamanogakko

編集・発行人: 長倉洋海/題字・イラスト: 近藤理恵/デザイン: 桂川潤

編集実務: 森 桂子/印刷: 藤田印刷株式会社

イベントなどの報告

ダイアリー 2020



▶1月26日(日)

文化講演会「アフガニスタンとシルクロード」

前田耕作先生(アフガニスタン文化研究所所長、和光大学名誉教授)を講師にお迎えし、東西の文明が出会うあの場所だからこそ生まれた文明と文化のお話を、アフガン愛をたっぷり込めて熱く語っていただきました。会場(武蔵野商工会館4階 市民会議室)もほぼ満席で、「知見が



▶前田耕作先生(左)と長倉代表。1月26日

広がった」「もっと聞きたかった」という声が多く寄せられました。

▶「アフガニスタン大使館見学ツアー(平日)」は希望者が少なく取り止めとなりました。

▶コロナ禍で現地訪問ができず、秋に予定していた総会・報告会はキャンセルとなりました。

スケジュール 2021

▶秋 総会・報告会 東京にて



2021年度
卓上カレンダー
「ごだわり」の
ご紹介!

長倉代表撮影のカレンダーをご購入の皆さま、お手元に届いていますか？ 卓上カレンダーでは、暦の中、および枠外はみだしスペースのチューリップのアイコンに気づかれませんか？ スタッフのごだわりをご紹介します。5月、三密を避け屋外での会議のこと、世界中を新型コロナウイルス感染症が襲い、現地訪問もできない今だからこそ、遠くから想い続けられないことが支援の一步になるとの声があがり、卓上カレンダーの企画がスタート。現地を訪問したことのあるスタッフが中心になり、長倉代表とアフガニスタンに暮らす安井さんの知識に支えられながら、毎月必ず1つ、アフガニスタンの祝日や習慣をご紹介します。日々の暮らしの中で、ふと山の学校の子どもの今を身近に感じていただければと願っています。

なお、郵送料のご負担なく複数の宛先への発送も可能ですので、プレゼントにも最適。これからのお申込みをお待ちしています。(売り上げはすべて当会の活動に充てられ、山の学校の子どものために使われます)

壁掛用 1600円(送料込み)

卓上版 1400円(送料込み・こちらはポスト投函で届きます)